

## 第3回会議の振り返り

1. 第3回会議の概要
2. 委員の主な意見

特命推進課  
令和5年2月9日

# 1. 第3回会議の概要

## ➤ ヒアリング結果 <報告事項>

- 與那覇 有羽氏（よなは民具）  
与那国島で伝統的な民具の制作・販売
- 八巻 希 氏（シカゴ沖縄県人会）  
海外のウチナーンチュによる沖縄の伝統芸能に関する取組

## ➤ 検討会の結果 <報告事項>

- 提言に盛り込む具体的な内容参考事例、推進体制などについて検討  
(計3回)

## ➤ 提言書(骨子案)について <議論事項>

- 提言書取りまとめに向けた考え方、委員意見の整理のしかたなどについてご意見をいただいた。

## 2. 委員の主な意見

### (1) 学校における歴史文化教育について

- ・教員が負担なく指導できるような教材づくりが重要。
- ・教員と行政(文化)担当が連携したうえで教材づくりをしていく必要がある。
- ・子どもの「学び」を深めるための工夫が必要。(調べ学習したものを学校・地域等で発表する場をつくるなど。)

### (2) 世界エイサー大会について

- ・世界のウチナーンチュネットワークの活用という意味では、海外で行われているエイサー大会などとリンクするなど、新たな形での展開も検討する必要があるのではないか。

### (3) 「アーツマネージャー育成事業」について

- ・舞台関係者などのスキルアップに貢献したい事業であったと思う。このような事業の成果を検証し、先につなげられるような人材育成を試みてはどうか。

### (4) 修学旅行生などに対する普及・啓発

- ・文化体験できる施設などを活用し、修学旅行生や県内の学生に沖縄の歴史や文化を教えていく(体験してもらう)ことも検討してはどうか。

### (5) 「美ら島おきなわ文化祭2022」後の取組について

- ・このイベントをきっかけとして、各市町村の文化活動などを体系的に見せていく(情報発信していく)ということをしていく必要がある。
- ・イベントを実施したことによる効果の検証までできるといいのではないか。

### (6) 世界ウチナーンチュセンターについて

- ・魅力のある世界のウチナーンチュの拠点たる沖縄をつくる必要があるのではないか。

## 2. 委員の主な意見

### (7)「シビックプライド」の醸成

- ・地域を活性化するためには、地元(地域)の人が地元の歴史や文化に対して自信と誇りを持つこと(シビックプライドの醸成)が必要。

### (8)先島への高等教育機関(専門学校・大学など)設置について

- ・先島地域の文化は琉球王朝の文化とは違い、生活の必要性から生まれた文化である。そのためにも地域の歴史や文化が学べるような教育機関(大学や専門学校など)の設置は必要ではないか。

### (9)エコミュージアムによるまちづくり

- ・地域文化を体感するためには、「エコミュージアム」という視点を県全体で共有していくことも必要。

### (10)「琉球歴史文化の日」の取組について

- ・条例を制定した後、どういった取組をするかという部分が重要である。

### (11)世界のウチナーンチュとの交流について

- ・世界のウチナーンチュ大会に対する沖縄県内の若者の関心度を上げ、より多くの若者が参加するため、世界のウチナーンチュ大会とあわせて音楽祭や芸能祭、空手大会など文化芸能を通じた交流も行ってはどうか。
- ・何年に1度かの交流ではなく、日頃から交流できるような体制にした方がよい。

### (12)「ホンモノ」を体現する場の創出

- ・歴史文化を体現もしくは見せるような場が必要である。そのためには、歴史的な施設などをどのように活用していくかというところも検討していかなければならない。

### (13)文化に関する情報や支援策の情報提供体制について

- ・文化に関する情報(補助金の制度や手続きなども含め)を提供し、サポートする体制が必要。